

## ★今月の星もよう★

## 第 125 号

10月の宵の頃、西の空にはまだ夏の**大三角**が見えています。アルタイルとベガは同じくらいの高さで西の空に並び、やや高いところに**デネブ**を見つけることができます。一方、天頂から東の空にかけては秋の星座が勢ぞろいしています。まずは、天頂あたりを見上げて秋の**四角形**を探してみましょう。秋の四角形は**アンドロメダ座**のα星**アルフェラッツ**と、**ペガサス座**の**胴体部分**を作る3つの星、α星**マルカブ**・β星**シェアト**・γ星**アルゲニブ**を結んでできる**四角形**です。ペガサス座の頭はみずがめ座の方向に、前足ははくちょう座の方向にのびていますが、胴体より後ろはあまりにも早く天を駆けているので見えないのでそうです。アンドロメダ座のα星**アルフェラッツ**は「馬」または「馬のおへそ」という意味ですが、これはこの星がペガサス座とアンドロメダ座の両方に所属していたためで、1928年の国際天文連合の総会で星座の境界線が定められた時に、アンドロメダ座の星となりました。もしペガサス座の星になっていたら、アンドロメダ姫の頭が無くなってしまふところでした。しかし、星の名前は「アルフェラッツ」のままなので、お姫様の頭の星名が「馬のおへそ」なのはちょっとかわいそうですね。



## ★紫金山・アトラス彗星★

2023年1月9日に発見された**紫金山・アトラス彗星**が、10月に肉眼で見られるのではないかと期待されています。

彗星は「**ほうき星**」といわれ、**流れ星**（流星）と混同されがちですが、**流れ星**が宇宙の塵が地球の大気と衝突して発光する現象で、一瞬で天空を流れるように見えるのに対して、彗星は氷やガス、塵でできた小天体で、太陽の周りを公転し、尾を引いたまま天空に留まって見えるという違いがあります。

この彗星は、今年7月には「**彗星の核が崩壊しつつあるのでは**」と心配されていましたが、8月下旬にNASAの衛星により、彗星は原型を保っていることがわかりました。10月上旬は明け方の東の低い空、3等前後の明るさで見えます。12日以降は日没後の西の低い空で見えますが、日に日に3等から6等へと次第に暗くなっていきますので、**双眼鏡**があると探しやすいでしょう。6~10倍のできるだけ口径の大きな視野の明るい**双眼鏡**がおすすめです。彗星は日々位置が変わるので、最新の情報を確認しながら、東と西の低い空が見渡せる場所で観察してみましょう。



## ★後の月・十三夜★

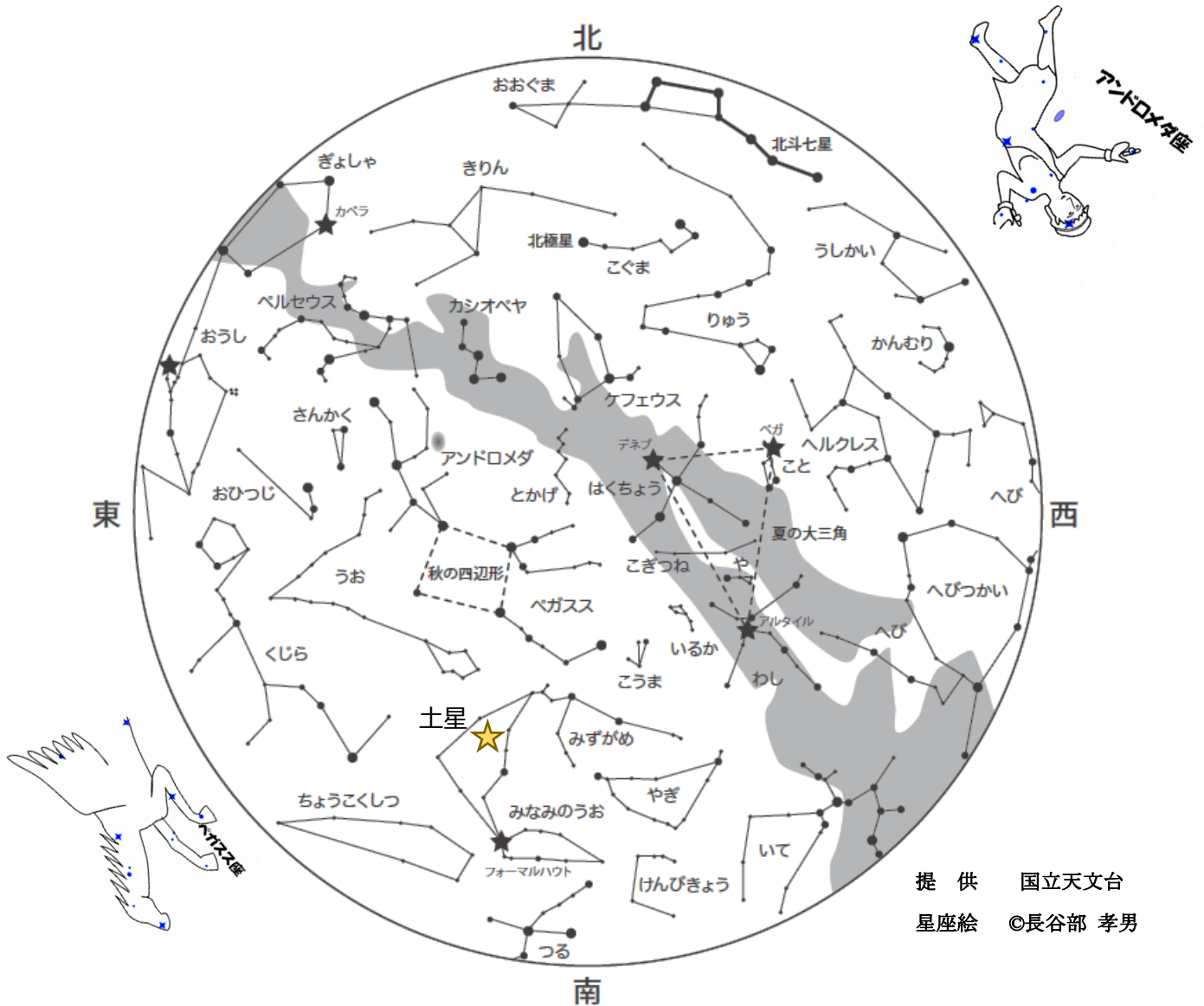
十五夜の月見（中秋の名月）は中国から伝わった風習が日本の月を祀る風習と合わさったものですが、十三夜は日本独自の風習として広まりました。旧暦の9月13日の、ほんの少し欠けた十三夜の月を鑑賞することで季節の変化や秋の深まりを感じるの、日本独特の感性ではないでしょうか。十五夜の月が一番美しいとされますが、それと同じくらい十三夜の月も美しいとされています。

また、十三夜の月は「**栗名月**」や「**豆名月**」とも呼ばれます。この時期に収穫される栗や豆など秋の美りに感謝する風習として広まりました。今年の十三夜は10月15日で、十三夜のお月見は「**後の月見**」と呼ばれるそうです。お団子を13個並べ、枝豆や大豆とともに2回目のお月見を楽しんではいかがでしょうか。

☆10月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「**投影案内**」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み 10/7(月)、15(火)、16(水)、21(月)、28(月)

# 10月中旬午後8時頃の星空



## ★ 10月の主な天文現象 ★

3日(木)	● 新月
6日(日)	☾ 細い月と金星が並ぶ
11日(金)	◐ 上弦
13日(日)	♄ 紫金山・アトラス彗星が地球に最近
14日(月)	♄ 月と土星が接近
15日(火)	☾ 後の月(十三夜)
17日(木)	● 満月 スーパームーン
今年、月との距離が最近(35万 7175Km)	
24日(木)	◑ 下弦

今年最も地球に近い10月17日の満月は、最も遠い満月だった2月の満月と比較すると、視直径が約12パーセントも大きく見えます。月と地球の距離が変化するのは、地球の周りをまわる月の軌道が楕円を描いている上、太陽や地球の重力の影響を受けて、軌道が複雑に変化しているためです。

